

第4回 西尾市多文化共生協議会 議事概要

日時	2021年5月27日(金) 10:30~12:00
場所	オンライン会議
出席者	近藤敦会長、土井佳彦委員、木下典子委員、磯貝明美委員、川部國弘委員、高木祐子委員、岩瀬恵委員、内田誠委員、高橋文華委員、手嶋修一委員、川口佐織委員
欠席者	安藤寛一委員、平田具大委員、トランティホア委員、大河内リナ委員
事務局	西尾市 手嶋課長、蛭川課長補佐、稲吉主事、加藤主事 MURC 南田、岩室

1. 開会

地域つながり課 稲吉主事

- ・ 協議会委員の変更2名。愛知県多文化共生推進室は東松委員から川口委員、一色高校校長は村瀬委員から手嶋委員となった。安藤委員、平田委員、トランティホア委員、大河内リナ委員は欠席。

地域つながり課 手嶋課長 挨拶

- ・ 本日は、貴重な時間を割いていただき協議会に参加いただき、お礼を申し上げます。本来は集合して直接説明し、生の声を聴きたいところだが新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言下なのでWeb会議で開催する。ご容赦いただきたい。
- ・ 令和元年度には外国人市民が1万人を超えていたが、本年4月1日では9,887人となっている。新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、外国人市民の増減の予測が難しくなっている。本市では多くの外国人が生活していることに変わりはなく、暮らす期間は長期化し、生活に密着した教育、福祉、ごみや災害対応などで難しい問題が生じている。今後は単なる外国人支援だけではなく、地域住民として認識することが重要である。外国人市民と日本人市民が互いに価値観を認め合うことが必要で、それにより様々な問題が解決されるのではないかと期待している。
- ・ 委員の皆様には、年度末まで多大なお力を拝借することになるが、よろしく願いしたい。

2. 議題

(1) 今年度の策定スケジュールについて

—資料1にもとづき、西尾市より説明。

内田委員

- ・ 計画の実施・実行期間はどのくらいを想定しているか。

事務局（稲吉主事）

- ・ 5年ごとに進捗確認をして、見直しを行っていく。5年を超える施策もあり、期日をもって完結するものではない。

土井委員

- ・ 12月以降のパブコメについて、その資料を多言語化し、多言語での意見を受け入れ、それを翻訳して対応を考えていく必要があるかと思うが、結構タイトなスケジュールにならないか。

事務局（稲吉主事）

- ・ パブリックコメントについては、日本語を想定していた。多言語化についても考えたい。

土井委員

- ・ 県内の他市でも同様のことが起こっており、日本語だけで作成しているとクレームの対象になる可能性がある。計画の概要版をやさしい日本語で作成する、外国語版はWebで見ってもらうなど、安城市、名古屋市の取組が参考になる。可能な限り対応されることを期待する。

近藤会長

- ・ 概要版は7か国語で作成し、パブリックコメント時に概要版ができていれば、それを出すことで多言語に対応することになるのか。

事務局（稲吉主事）

- ・ 計画書については、本編すべてを多言語化することが困難なので、概要版の多言語化を想定している。外国人市民にパブリックコメントを求める場合は、概要版の作成を間に合わせるようにすることを考えている。

土井委員

- ・ 外国人も自分の国の言葉で確認をして、意見を出せることが重要である。名古屋市では、第二次策定時にパブリックコメントを多言語化した但外国人から回答を得ることができなかった。外国人にとってはあまりにも量が多くて、どのような意見を返して良いかわからないとのことであった。愛知県では市民会議で話を直接する場を設けて、その場で意見を記入する工夫をしている。コロナ禍で難しい場合は、

簡単な動画で説明をして YouTube で見てもらうなど、意見を出しやすいように工夫できるとよい。

近藤会長

- ・ 事務局からは、概要版にはイラストを入れてわかりやすい、読みやすいように工夫すると聞いている。日本語がネイティブでない人にもわかるような工夫を考えてほしい。

川部委員

- ・ 愛知県は、年3回タウンミーティングをして、意見を反映できるようにしている。西尾市も外国人自身の意見を反映するため、きめ細かく伝える配慮があっても良い。

事務局（稲吉主事）

- ・ 外国人に対してどのように伝え、意見を収集していくのかは、常に課題となっている。どのような手法が効果的なのかを外国籍の委員などから話を聞いて、効果的な方法を探していきたい。

近藤会長

- ・ 事務局は、各委員からの意見について検討をお願いしたい。
- ・ ではプランの構成、目次について説明をお願いしたい。

(2) 多文化共生プランの構成・目次について

－資料2にもとづき、MURCより説明。

内田委員

- ・ 基本的な考え方が重要で、基本理念は協議会を立ち上げたときのものが基本となるだろう。現状と課題と基本目標は、どのように関連するのだろうか。基本目標は現状と課題に対応する方策であるべきではないか。

事務局（MURC）

- ・ 指摘の通り関係していて、現状と課題で上がっているものから5つの基本目標としている。詳細については次の議事で説明したい。

磯貝委員

- ・ 現状と課題について、外国人市民が主語のことが多く、日本人市民のことはいかがか。

事務局（MURC）

- ・ 日本人市民に関する踏み込みについて、足りないという指摘については検討する。詳細は、次の議題でお願いしたい。

高木委員

- ・ 基本的な考え方について、キーワードはどこに入るのか。基本目標は、どこから出てきているのか。キーワード自体の説明はあるが、項目の文言を資料から探せなかったので説明して欲しい。

事務局（MURC）

- ・ 基本目標の下の5つの目標のことだと思う。次の議事で詳細を伝えて意見をいただきたいと思う。

(3) 現状と課題、基本理念について

－資料3にもとづき、MURCより説明。

川口委員

- ・ 資料2の現状と課題で「学齢期児童の先駆的な取組」があると書かれているが、どのような取り組みが行われているのか。また、課題として基本目標2の「子どもの育ちと学びを応援する」とどのようにつながっているか。
- ・ 資料3のグラフについて、課題は多い順の方が見えやすくクリアになると思う。

事務局（MURC）

- ・ 指摘の資料2のP9にある「先駆的な取組」について、西尾市では、KIBOUやカラフルなど、いわゆるプレスクールの活動に積極的に取り組んでいる。目標については、網羅的というより選択と集中で示していきたいと考えている。西尾市の特徴も計画で見えるようにする中で、外国にルーツを持つ子どもの支援を盛り込んでいる。文言についての説明不足は検討したい。
- ・ グラフを多い順に並べることについては、承知した。

川口委員

- ・ 先駆的な取組を取り入れつつ、今後の課題は何かがわかりやすくなるよう資料2

の表現を変えていただけるとよい。

内田委員

- ・ 川口委員の質問事項に同意である。せっかくアンケートからの裏付けがあるので、この活動が評価されているか、確認が必要ではないか。このままでは自己評価と思われるのではないか。
- ・ 基本目標は、言葉があいまいになっていて、課題が全く見えなくなっていることを懸念する。目標は課題をふまえた具体的な取組を明示したらいかか。例えば、防災について「市として年2回、1,000人が参加するイベントを開く」というようなものである。方法は施策で考える。「外国人の8割が情報収集できている」などが考えられる。

近藤会長

- ・ 私の印象であるが、基本理念、基本目標が現状と課題より先に来ている方がわかりやすいだろう。現状と課題の順番と基本目標の順番が異なっているのもわかりづらい。
- ・ 順番を変えて基本目標に即して足りない部分、現状の問題がアンケートからうかがえるように構成しなおすとすっきりするのではないか。
- ・ もう一点は、KIBOUなどはプラン作成前にできていて成果がある。先にこれまでの人口増大に伴って始まった施策について書いてから現在の課題になると、ある程度進んだ取組と現状、課題があることがつながる。
- ・ 最初に基本理念と現状にいたるまでの経緯とキーワードの説明があって、次に基本的な考え方があり、基本目標のそれぞれに現状と課題が記載されているという構成ではいかかか。

内田委員

- ・ 目標が雑多な印象を受け、わかりにくい。例えば「外国人の8割が情報を入手できる」ということが目標となるのではないか。

事務局（稲吉主事）

- ・ ご指摘の通り、5本の柱には細かい数値目標は含まれていない。目標の柱を達成するための施策については、今後、担当課と協議を進めていきたい。施策をつくるためのアイデアについて、委員の皆様からお力添えをいただきたい。

近藤会長

- ・ 基本目標という言葉工夫する。指針やゴールといった数値目標的なものではな

い言葉に置き換えると、よいかもしれない。

木下委員

- ・ 基本目標と施策の方針について「構成・目次案」にまったく同じことが書かれている。目標はこれから進めていく中で出てくるものではないか。目標というより方針があり、各職員が取りまとめて実現可能な目標が出てくると思う。現状は方針ではないか。

近藤会長

- ・ そのように修正をお願いしたい。

川部委員

- ・ 多文化共生プランを、誰のためにつくるのか。30年間、団地で暮らしているが、外国人が増加したことによって、地域住民に大きな負担をかけてきた。通訳がいなため、善意で外国人保護者のために深夜に翻訳したことも多々あった。
- ・ 外国人市民と日本人市民が暮らしやすい地域を構築することが目標であろう。
- ・ 外国人は災害に大きな不安を持っており、外国人が参加する自主防災会議が必要で、PTA・子ども会の役員に外国人保護者を加えていくことも必要だと思う。

事務局（稲吉主事）

- ・ プラン策定が目的ではない。プランを基に、西尾市民すべての方が住みよい西尾市を作るためである。第一次は5つの指針で策定し、その中で市民にとって足りない部分を補うため、どのような取り組みが必要か、みなさんの実際の経験を教えていただいてプランに反映させたいと思っている。基本目標にあるように「取り残されず情報を得ることができる」にかかってくること、例えば、多言語になっていないため、どういう課題があって、どのような取り組みに改善すべきかを考える場だと思っている。ご発言をお願いしたい。

川部委員

- ・ 今でも、外国籍の子どもたちは、父母が日本語を理解できないために、市役所や医療機関に行く時に学校を休んで通訳を担っている。もっと現実を知ってほしい。
- ・ 文章を作るだけでなく、人として向き合っていただきたい。

内田委員

- ・ 川部委員の発言はとてもよく理解できる。基本目標に具体性がないことに同意する。現状と課題までは、ものすごくよく現実を捉えている。ここに様々な経験を加

えて目標を具体的に作る。理念は、誰が書いても大きな間違いはないと感じる。基本目標から具体性がまったく見えないという意見は私も共感する。

川部委員

- ・ 日本人の問題として、町内会に外国人だから加入させないことがある。自主防災会、PTA 役員、子ども会の役員に加入させないということもあり、日本人の閉塞感が大きな問題である。お客さん扱いではなく、隣人として迎えることが重要である。

事務局 (MURC)

- ・ 具体的な内容は次回以降に提示し、議論していただこうと思っている。本日はその上の段階、構成について皆様に確認いただき、次回までに具体的な内容を提示できればと思っている。

近藤会長

- ・ 施策の方針内の施策や数値目標は、今回は扱っていない。施策の方針の中で述べるのがよくないということであれば、基本目標として数値目標や具体的な目標をもう少し上の方、基本方針の後に掲載してはいかがだろうか。それが必要かどうかはまた考えればよい。
- ・ ご指摘の部分は、施策の中でできるだけ外国人が参画できる仕組みを入れていく。施策の方針1「誰もが活躍できる」の中に、市民活躍や地域参画の促進が入っている。そこに、川部委員の意見や自治会の加入などが入っていく。ただ、自治会への加入は強制できるか分からないが、加入させない状況があるならばそれを取り除くことはできるのではないかと思う。加入は本人の意思次第ではあるが、できるだけ加入を促進するプランをできれば目標値まで入れて、進捗や加入促進状況を確認していくという作り方はできるかと思う。

内田委員

- ・ これから施策を作っていくというのはわかるが、これだけあいまいな基本目標から川部委員の指摘にはたどり着かないだろう。課題の方がクリアなのに、なぜあいまいになるのか。
- ・ 私は、今年度から町内会の評議員をしている。町内会には64軒が加入、外国籍で加入していないのは11軒。言葉が話せる私が11軒とコミュニケーションを取った。これは町内会初だと思う。町内会に加入しないのは、だれも入っていないから。加入後に辞めた理由は、言葉が分からないので班長ができないからである。これでは前回と変化がないと感じるため、時間をかけないといけないのではないか。

高木委員

- ・ 内田委員と同様、前回とあまり変わっていない気がする。具体的な取組を提示してほしい。5つの方針はこれでよいが、その下に具体的な方向性や目標が入っていれば、今回の会議に対して納得ができたのではないかと思う。事務局から目標などに対する意見を出してほしいという話があったが、市民にプランとして提示するなら具体的でないと、私たちができることや意見を出しづらい。
- ・ 資料3の「西尾市の多文化共生の現状と課題」の「西尾市の外国人市民の動向」でインドネシアが5番目になっているが、今は4番目ではないか。P3のグラフと整合性が取れていないと思う。

近藤会長

- ・ 施策の方針の中身として、PTA、自治会への参加、防災関連への参加は出てきた。もし、可能であれば現段階で入れた方がよいものを出してもらい、市の会議等に伝えてできるだけ盛り込む。今日の議題ではないが、方針の具体化のために意見があれば。

土井委員

- ・ 検討スケジュールについて。今日は章立ての確認をし、6月の具体的な施策の提案をもって、7月の第5回協議会で検討。さらに庁内検討を経て第6回というのはよいと思うが、7月の90分の議論で済むとは到底思えない。丁寧な議論のために最低2回は必要だと思っている。事前にプランを見てコメントを求める場合もあるが、それはとても時間がかかるので無報酬ではされない方がよいし、個人的にはしてほしいと思っている。
- ・ 4の施策方針について具体的に列挙するのではなく、重点施策を示すのが必要になると思う。すべて同等に扱うのではなく、特に西尾市で注力することを示すよう次回までをお願いしたいと思っている。
- ・ 構成案の「5プランの推進に向けて」の(1)推進体制について、担当部署を明記していただきたい。ここがあいまいだと最後の評価時に困るので、加えていただきたい。(2)進捗管理の方法が肝要で、KPIと言うか、どのように進んだのかを計ること、どのように計るのかを具体的にさせていただかないと、プラン策定後の結果が分からなくなる。きっちりと決めていただきたい。
- ・ 私が多くのプランで失敗だと思うのは、事業量など手段だけが数値目標として掲げられていること。問題がある。例えば、日本語教室を増やすことでは意味がない。そこに学びに来る環境がないといけないし、通っていても上達しなければ教室が存在する意義がない。イベントや日本語教室の開催だけではなく、日本語能力が向上するなど課題が解決するような指標を作って、取り組んでいただけたらと思う。

磯貝委員

- ・ 現状と課題について、とてもわかりやすい。ただし、外国人サイドの現状と課題が主で、日本人側の現状が少ないことが残念だと思う。もう少し取り上げる予定はないだろうか。調査結果を見て、日本人からは他人事の意識を感じた。そこにアプローチすることが重要である。片方だけのアプローチでは、なかなか全体的な目標へは届かないのではないか。

近藤会長

- ・ 日本人側について、何か増やせないか検討いただきたい。やさしい日本語の学習機会の増加、日本人側の交流を促進することなどにつながるようなものがあると良いかもしれない。

川部委員

- ・ 多文化共生の言葉自体が日本人に周知されていないことが課題である。日本人が外国人労働者を必要としている、受け入れ側の課題であるということを明確にしていきたい。そうしないと、日本人側の意識は変わらない。外国人市民が必要なのは日本社会であることを前面に出さないと、多文化共生は日本人に浸透していかないだろう。私はずっと日本人側の問題であると感じている。

近藤会長

- ・ 少子高齢化など日本社会の背景も記載するとよいと思う。

川部委員

- ・ 中部圏地域創造ファンドと連携して保見団地で行った住民アンケートの結果が、まとまった。地域活動、教育、高齢者の医療・介護、防災など生活の場に直結したたくさんの情報があるので、参考にしていただきたい。

岩瀬委員

- ・ 地域つながり課で外国人相談窓口を担当している。外国人市民から町内会について、強制加入かどうか、会費のこと、ゴミのことなどの質問を受ける。町内会がゴミの管理をしていることを知らない外国人市民は多い。また、町内会に加入したくない、班長になったのでやめたい、子ども会とPTAがつながる校区では両方とも参加すると負担がかかる、仕事が忙しい、お金を払っているのになぜそこまでやらなければならないのかなどといった声もよく聞く。ブラジルには、町内会はなく、PTAはある。資料が読めない、ややこしい手続きが多いなど、本人たちが嫌がっ

ている。

- ・ 私は 30 年以上、西尾市で外国人市民として生活している。30 年前は学校の資料で多言語のものはまったくなく、学校のルールもわからなかった。今はカラフルで、学校の便りなど多言語の翻訳をしている。30 年でここまで変わったと実感している。また、市民病院に通訳が 2 人いる。防災リーダーに入っている通訳もいて、西尾市が以前よりよくなってきていて、日本人も関わってきてくれている気はする。窓口で話していると、新しい外国人市民が先輩市民に話を聞いて、西尾に住みたいという外国人は比較的多いと感じる。
- ・ SNS の時代なので、ミスがあつという間に広がってしまうことには、細心の注意を払い、SNS を通して西尾市をより知ってもらうよう努力している。
- ・ 外国人市民の協力者も増えてきている。日本人向けに外国人市民たちが活躍していることを知っていただく。例えば広報にしおに西尾市在住の家族、西尾市で働く人のインタビュー、町内会のことなどを載せる。日本人に怖い人たちではないというアピールをしてはいかがかと思う。

近藤会長

- ・ 活躍している外国人市民について、ぜひ広報に掲載していただきたい。市からは外国人市民へのインタビューを掲載することを考えていると聞いている。市からは、プランそのものにコラム形式で外国人市民へのインタビューを掲載することを考えていると聞いている。インタビュー対象者の推薦をぜひお願いしたい。

川部委員

- ・ がんばっている外国人を市民へ紹介することは非常に良い。
- ・ この協議会は、各委員の率直な思いを議論できる場としていただきたい。

近藤会長

- ・ 終了の時間が来てしまったのでここまでとする。方針について、意見があれば事務局までメールなどで事前提出をお願いしたい。発言できなかった方は特に気づいた点などあれば、ぜひ寄せてほしい。

3. その他

- ・ 次回の第 5 回多文化共生協議会は 7 月を予定している。開催方法は新型コロナウイルス感染症の状況をみて判断する。

以上